

試走報告書

2015.05.16-2015.05.17に実施した、BRM530の試走報告です。

1. 概要

コース全体と通して、特に走行の障害となるようなものは有りませんでした。身体への負荷はそれなりでしたが、作戦の難しいブルベと感じました。

報告の内容はシンプルに走っただけとなっています。雨に降られた以外には、故障やパンク、体調不良のトラブルなく終了しました。

去年のこのブルベは、R134のオーバーペースからくる股関節痛で、沼津でリタイアしました。今年3月のSの400で、向かい風区間で急行列車に無理してついていって膝を痛めました。そのため、西東京の300も、400も続けてリタイアとなりました。

膝などに違和感が残るものの、ようやく調子が戻りましたが、先週、虫に刺されたようで足首からふくらはぎが腫れました。薬を携えての試走でした。

先の反省から、ペースがオーバにならないように、特に注意して走りました。さらに負担を出来るだけ軽くするため、余計なことは一切しないという方針で！

2. 通過時刻

町田	05:00	(スタート)
江の島	07:11	(通過チェック)
伊豆	11:51	(PC1)
富士川	14:22	(PC2)
南アルプス	18:16	(PC3)
諏訪	22:47	(PC4)
長坂	01:44	(通過チェック)
笛吹	03:39	(PC5)
芝川	07:38	(PC6)
山中湖	12:19	(PC7)
町田	15:48	(ゴール)

3. スタートまで

起床、準備のため玄関を開けたら、雨が降っていました。

しばし思案して、家を出る時刻にもう一度外を確かめると雨はやんでいたもので、雨具はしまったまま、スタートへ向かいました。

家を出てから30分ほど進んだところで、また雨が降ってきたので、雨支度しました。

4. スタートからPC1

5:00 仲間に見送られてスタートしました。ウェット路面のこともあるので、おとなしめに走りました。一方、川崎さんは、小田原漁港のカレーを目指して、飛んでいきました。

江の島に到着。ここではトイレ休憩のみとし、川崎さんを追いかけます。真鶴で一度見かけましたが、信号でちぎられてしまいます。もちろん、オーバーペースに注意していたので、無理して追いません。

熱海が近くなってくると、初島がくっきり見えていました。(イカ刺が頭に浮かびます)伊東から冷川への上りでは、低い雲の中で、幻想的でした。冷川から暫く下ると、PC1です。雨はやみ、路面も乾いていたので、雨装備は片付けます。

5. PC1 から PC2

工事中のサイクリングロードは完成していました(#29)。#30の直前に自然にK129へ合流するので、それを進むのが良いでしょう。K129へは右からの合流なので、車等に注意しましょう。

沼津から富士までは退屈な千本松ですが、それを過ぎると間もなくPC2です。

ここで、チェーンに注油しました。油は小さな目薬の容器に入れて持っていくことにしています。(悪いコンディションで使うので、モリブデン入りのハンマーオイルが私の好みです。)あと、新品でないけどブレーキシューかな?消耗品の予備は・・・工具やタイヤは言うまでもありませんよ。

6. PC2 から PC3

富士川に沿って上っていきませんが、芝川あたりの富士川は岩が浸食されて、意外に綺麗です。

TDKの工場はバラが絶好調でした。当日もまだ花があるといいですが。(個人的には、旧道の方が風情があって好きですが、バラが見られたのでよしとしましょう。)

お天気が良ければ、時刻的にも追い風の強い区間です。残念ながら天気はどうにもなりません。弱い追い風に少し助けられて、PC3へ到着します。

この先、夜になりますから、ライト点検、メガネなどチェックします。

7. PC3 から PC4

まだ明るさは有りましたが、夜支度を終えたので、富士見へ向かいます。サントリーの蒸留釜の頃には真っ暗でした。富士見峠では、下りでの冷えに備えてウインドブレーカを重ねて、諏訪へ下ります。途中、数回、ブルバライダーとすれ違いました。(静岡の600だったようです。)平坦な諏訪の町を進むと、真っ暗な湖の前のPC4へ到着します。

8. PC4 から PC5

夜の寒さに備えて、ウォーマーを取り換えて、リスタートしましたが、午前の雨で湿っていて寒いです。スタート直後にとまって、さらに着込みます。

富士見へ向かって登ると暖まります。少しずつ脱ぎながら(蒸れた状態で登ると、下りでつらくなります)登りますが、峠では、また着込みます。

しばらく下ったら、長坂を目指して、R20から分岐します。真っ暗でちょっときつめの登りです。また脱ぐ。徐々に下り基調になるので、また着込む。アップダウンを繰り返すうちに通過チェックの長坂です。

ここからは下り基調なので、それほどの休養は必要ありませんが、眠くなる時間帯になるので大変厳しいです。下る間が最もつらいので、十分な対策をしましょう。(私はここが一番辛かったです。仮眠するなら、諏訪がよさそうに思います。車が通ったり、スピードにのるR20と違って、マッタリして眠くなりやすいので早めの対策が必要です。)一人で下らないで、どなたかとお話などしながら下るとよいでしょう。

甲府の街にはいると、信号に何度も止められます。(諏訪で仮眠した人は)時間に余裕をみましょう。

少し小高いところを通るので、甲府の夜景が見えます。それを見ながら、PC5へ到着します。コンビニにテーブルと3脚の椅子があったので、突っ伏して眠ろうとしましたが、日頃しなれなことはダメです。諦めて、再スタートすることにしました。

9. PC5 から PC6

明け行く空をみながら進むと、山頂部に朝日を受けた南アルプスが抱く雪が綺麗でした。鯉沢近くでは、カジカの声がきれいでした。鯛(セミ)のような・・・鳥のような・・・

往路の富士見でもカエルの大合唱に歓迎されましたが、カジカに比べると普通のカエルはうるさいだけ。

やがて、すっかり明るくなります。レトロな身延の街を過ぎ、緑豊かなアップダウンを越えると、PC6へ到着します。ボチボチ、一般のサイクリストが活動を始める時刻です。

10. PC6 から PC7

芝川を後に、朝霧へ向かうとやや強い登りが始まりますが、のどかな田園に癒されます。日差しの強さを感じたので、日焼け止めをつけます。

ミルクランドは車がチラホラ駐車していましたが、横目に素通りしました。さらに進むと富士が大きく見えますが、雪は少なく深い谷だけに残っている程度でした。そのうち、展望台から湖が見え鳴沢へむかって下ります。

R139に入り、しばらく快適に下りますが、富士吉田が近づくと、路面が荒れています。吹っ飛ばされないように、ハンドルを握る手に力が入ってしまいます。あまりに荒れているので、昔聞いた「これが僕らの道なのか」って歌を思い出しました。「今も昔も儲かっているはずなのに なぜこんなに酷い 本当の事を言ってください だれが上前はねたのか」(もちろんオリジナルの歌詞ではありません)

富士吉田を離れ、山中湖が近くなると風が冷たく感じられ、山中湖を深く回り込んでPC7へ到着します。PC7では、冷たい風のおかげで、温かい蕎麦が美味しく感じられました。

11. PC7 から ゴール

山中湖まで戻ると帰ったも同然、安心感も加わり、燃え尽きた炭の白い灰のようにスカスカです。

山伏を超えて、道志へ静かに下っていると、五月蠅いオートバイの集団が後ろからやってきました。このおかげで、出尽くしていたアドレナリンが最後に一絞り出てきて、気力が戻りました。(パワーまでは戻りません)

青山のT字にたどり着けば、もう庭みたいなもので、やがてゴールです。街中では最大限安全に注意してゴールを目指しましょう。

12. ゴールのあと

オウチを目指します。家族に無事な姿を見せてブルベは完了です。

以上